

佳作

## わたしの元気なおじいちゃん

東京都  
葛飾区立道上小学校三年

大町 彩葉

それは、朝の読書タイムの時。だけれが、  
「あのおじいちゃんだれだ。」

と言った。わたしがふりかえると、おじいちゃんが、教室の中のをぞいていた。あわてておじいちゃんの所へ走って行き、聞いた。  
「どうしたの？」

「お習字のゴミぶくろわすれたって、ママが言ってたから。」

と、ポケットからビニールぶくろを出して、わたしてくれた。わたしは心の中で「ありがとう。」と思ったけど、おじいちゃんには、てれくさくて言えなかった。

学校から帰って、ママに聞いた。

「おじいちゃんは？」

「たぶん、さん歩だよ。」

そう、うちのおじいちゃんは、七十八才なのに、毎日二時間もさん歩するくらい元気なのだ。じゅぎょうさんかんとうん動会は、学校で一番に来てくれるし、夏休みのラジオ体操うには、いっしょに行ってくれた。ちよつとおもしろい体そうだったけど。習い事に行く時も、自転車をおもしろい体けないスピードでビュンビュンこいで行く。わたしが小さいころは、おじいちゃんの後ろのつて、遠くの公園までつれて行つてもらったのをおぼえている。とてもなつかしい。

でもすきな所ばかりじゃない。イヤな所もある。それは、きれいずきすぎるところとこはんの時のしせいにきびしい所。すぐに、

「ゴミない？」

と聞いてくる。

ものすごくおもしろい所もある。オナラの話が大好きで、いつも、

「オナラをがまんすると体にわるいから、がまんせずに、大きなオナラをしろ。」

と言う。

こんなに元気でおもしろいおじいちゃんだけど、ちよつと心配な事もある。きょ年に左足を手じゅつして、今度は、右足を手じゅつするよていだ。前のとき、たいいんして、足をひきずっていたので、わたしが、  
「いたいの？」

と聞くと、

「いたくなんかないよ。」と答えたけど、顔が少しかなしうだった。自転車にもおれなくてさびしかったけど、しばらくして、またいつもの元気なおじいちゃんになつてくれたので、すこくうれしかった。「本当によかった。」と思った。

だから、今度もぜつたい大じょうぶだと、しんじている。そして今度は、今まで言えなかったけど、

「おじいちゃんいつもありがとう。手じゅつがんばつてね。また、公園行こう。いつまでも自転車をこいでいる元気なおじいちゃんできてね。」

と言いたいと思う。